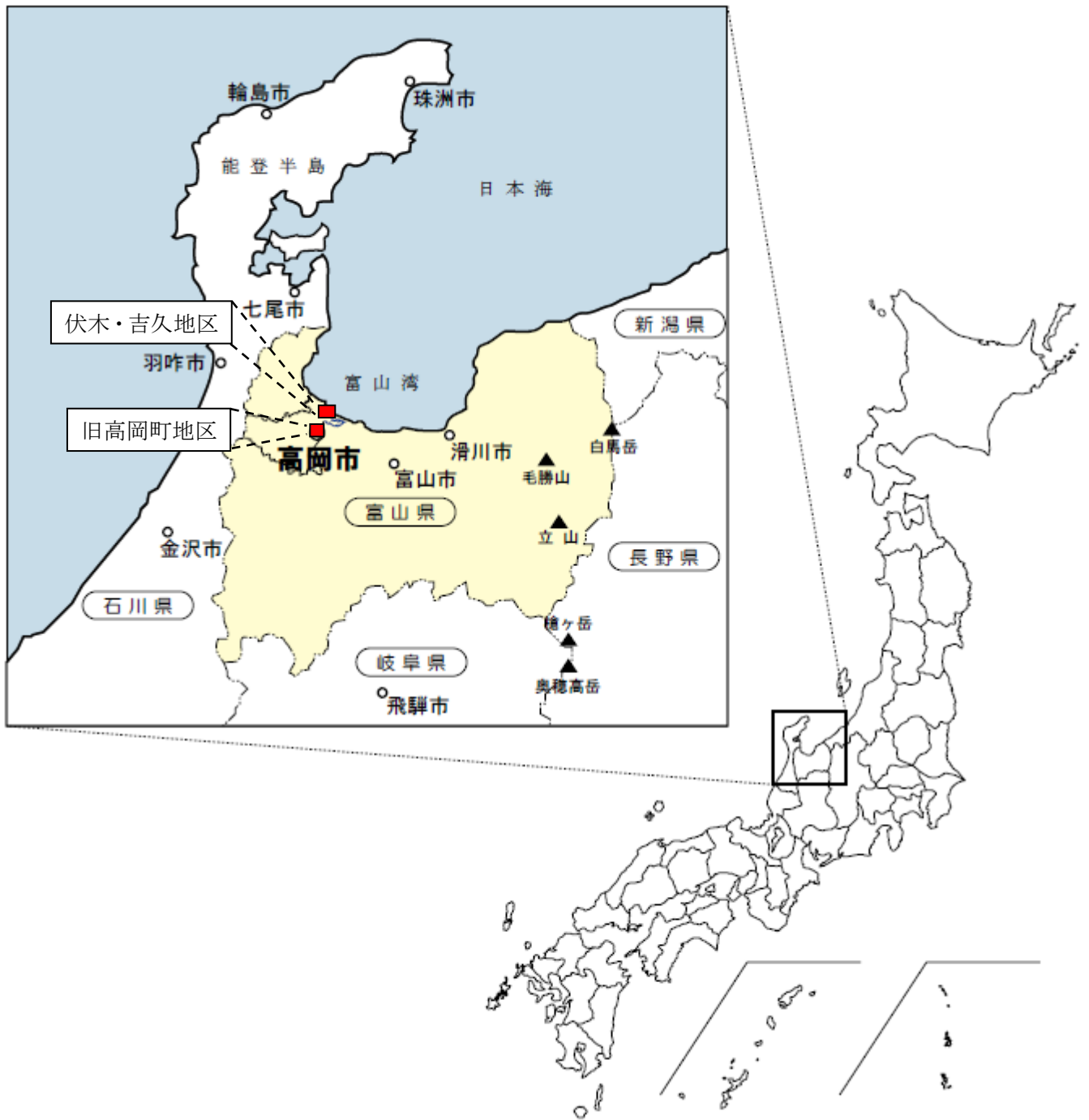
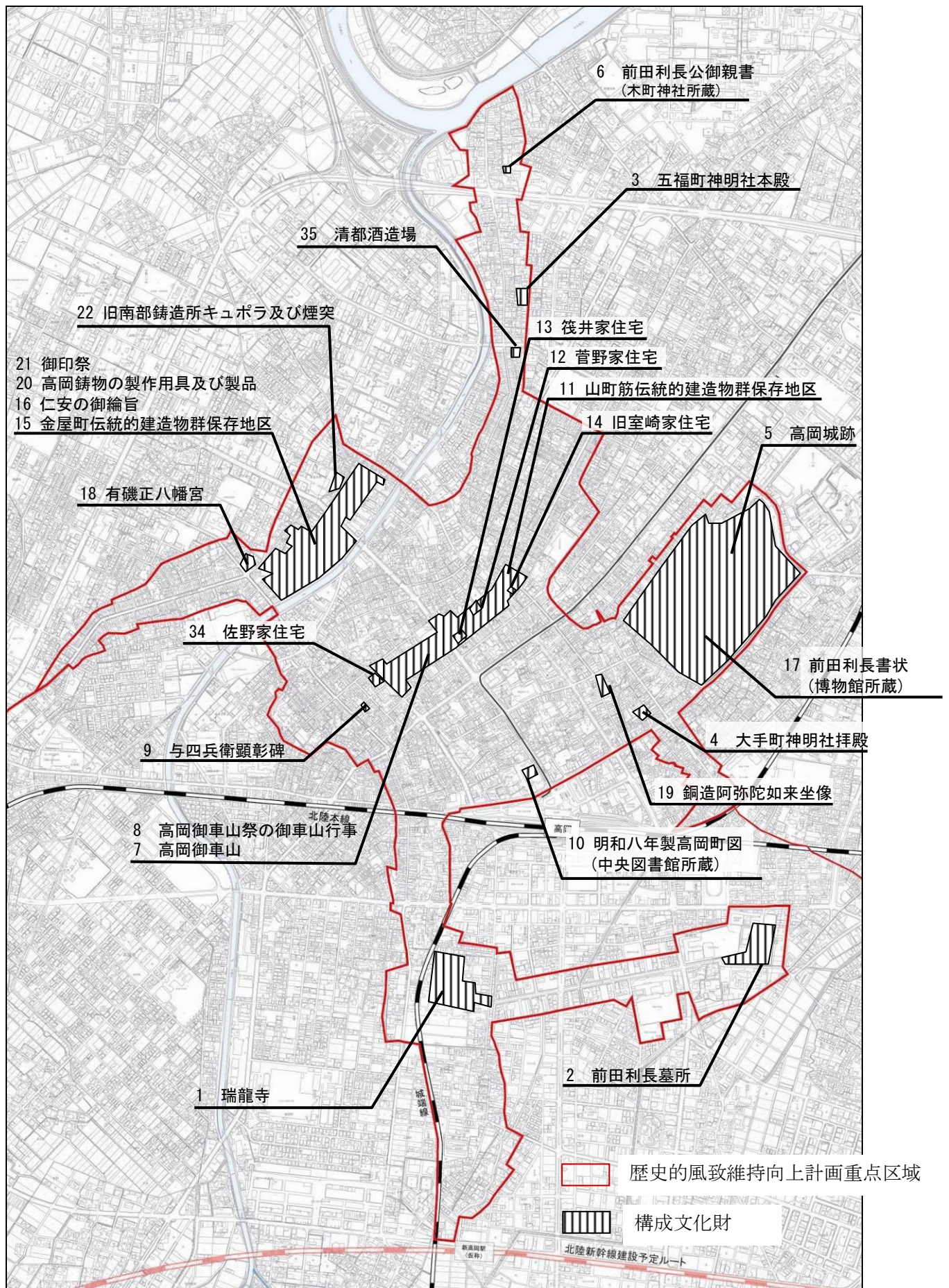


① 申請者	高岡市	② タイプ	<input type="checkbox"/> 地域型 / シリアル型 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B C D <input type="checkbox"/> E		
③ タイトル					
加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心一					
④ ストーリーの概要（200字程度）					
<p>高岡は商工業で発展し、町民によって文化が興り受け継がれてきた都市である。高岡城が廃城となり、繁栄が危ぶまれたところで加賀藩は商工本位の町への転換政策を実施し、浮足立つ町民に活を入れた。鋳物や漆工などの独自生産力を高める一方、穀倉地帯を控え、米などの物資を運ぶ良港を持ち、米や綿、肥料などの取引拠点として高岡は「加賀藩の台所」と呼ばれる程の隆盛を極める。町民は、固有の祭礼など、地域にその富を還元し、町民自身が担う文化を形成した。純然たる町民の町として発展し続け、現在でも町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに、高岡町民の歩みが色濃く残されている。</p>					
⑤ 担当者連絡先					
担当者氏名	高岡市市長政策部文化創造課 主事 田中 裕香				
電 話	0766-20-1255	FAX	0766-20-1644		
E-mail	bunsou@city.takaoka.lg.jp				
住 所	富山県高岡市広小路 7-50				

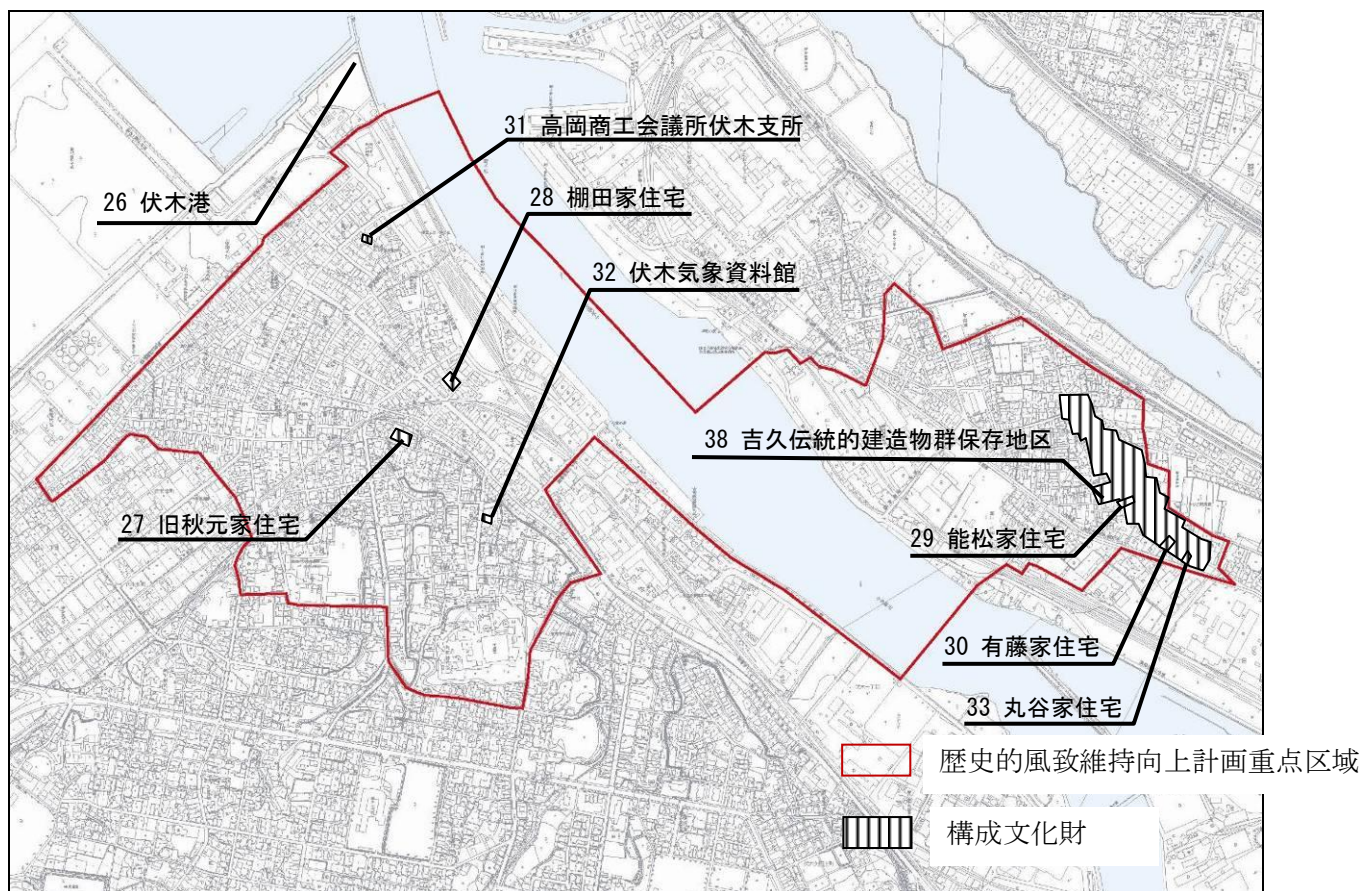
市町村の位置図(地図等)



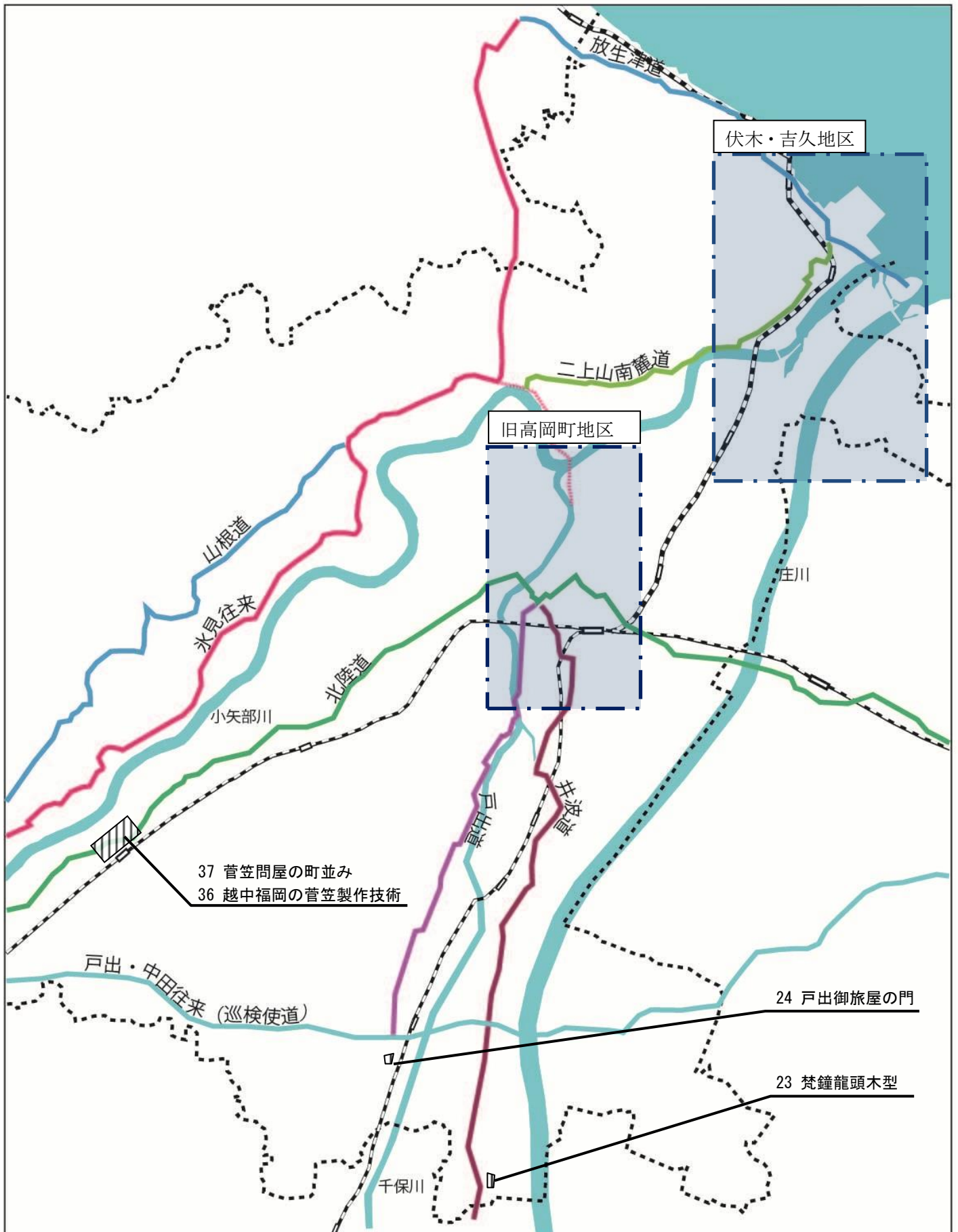
構成文化財の位置図（地図等）（旧高岡町地区）



構成文化財の位置図 (地図等) (伏木・吉久地区)



構成文化財の位置図 (地図等) (高岡市内全域)



ストーリー

高岡城と城下町の形成

高岡は、北陸を代表する穀倉地帯を背後に控え、北は富山湾に面し、雨晴海岸からは海越しに 3,000 m 級の立山連峰の大パノラマを見ることが出来る、美しく豊かな自然に恵まれた環境を有し、古くは旧石器時代まで遡る人々の営みが見られた。

現在の高岡の基盤は、近世初期に形成された。加賀前田家二代当主前田利長は、若き頃に山城（守山城）から俯瞰し、この高岡の地が要害としての軍事的な機能だけでなく、水陸交通の要衝として経済的な機能を合わせ持つ理想的な地であると見抜き、慶長 14 年(1609)、高岡城を築城した。荒れ地であったにもかかわらず、この地で築城できる機会を心待ちにしており、驚異的な早さで建設工事を進め、築城開始からわずか半年で入城するに至った。城下町の一面に、資材の集積と調達を行うための拠点(木町)を設けたことや、砺波郡の西部金屋から 7 人の鋳物師を招き、無租地とするなどの厚い保護や特権を与え、鋳物づくりを行う鋳物師町(金屋町)を設けたことで、城下町としての繁栄を図った。

しかし、高岡城を創建し 400 余年に渡る高岡市の発展の土台を築き上げた人物である利長は、在城わずか 5 年で他界してしまう。家臣団はことごとく金沢に引き揚げ、次いで一国一城の令により、高岡城は廃城となったので、城下町の歩みを始めていた高岡は、たちまち絶望の淵に突き落とされたのであった。



城下町から商工業都市への転換

城がなくなれば、城下町は存在の意義を失ってしまう。高岡は、新設の政治都市として日が浅く、町を存続するにはそれ相応の対策がなくてはならない。三代当主前田利常は、一朝の夢に終わるか危ぶまれた高岡の繁栄を、活を入れて立て直したのである。高岡町民の他所転出を禁じ、その上で、布御印押人を置くことで高岡を麻布の集散地とした。さらに、御荷物宿、魚問屋や塩問屋の創設を認め、城跡内には米蔵と塩蔵を設置するなど、商業都市への転換策を積極的に講じていった。

利常は、利長が高岡に相当の希望をかけていたことを知っていた。だからこそ、商業都市への政策転換を進める上でも、利長が築き上げた町割りなどを活かした形で行われた。異母弟である自分に家督を譲ってくれた利長への恩義も深く、菩提のために造営した壮大な伽藍建築を持つ瑞龍寺や異例の規模を誇る墓所は、利常自身のみならず、町民に永く利長の遺徳をしのばせ、併せて町の繁栄を願う気持ちも込めて建立された。また、利常は高岡が軍事拠点としての機能を失うことに対する危惧を持っていた。高岡城にあっては、平和的利用として米塩の藩蔵を建てることによって幕府に干渉の口実を与えず、城の郭や堀は完全な形で残すことができたのである。その姿は今日でも変わらない。利常の優れた経営手腕は、現在も数多く残る関連文化財群に垣間見ることができる。

高岡の近代化

利常の没後も加賀藩ではその意思を継ぎ、高岡の商工業発展のための方策を打ち出していった。利常によって再建された高岡は、商人の町であると同時に職人の町でもあり、藩政時代を通じて領内の鋳物業界を支配し、町としての特色が根付いていくとともに町民自身も自ら競い合いながら発展していった。最初は、鍋・釜などの生活用具、農具等の鉄器具類が作られていたが、次第に銅器の鋳造が始まり、18 世紀後半になると香炉・花瓶・火鉢・仏具等の文化的な品物の需要が高まり、装飾性の高い製品が製造されていった。銅器製造が盛んになるにつれて、これらの製品を売りさばく商人や問屋も次第に力

をつけ、北前船（バイ船）交易などによる国内流通の発展も伴い、江戸時代後期には全国各地に広い販路を確保し、海外貿易にも乗り出していくのである。

一方、伏木港の重要性は、砺波・射水両郡の穀倉地帯で収穫された米を各地の御蔵等から集めて伏木・吉久へ川下げし、伏木港から大坂・江戸へ廻米として積み出すという流通ルートが確立され、18世紀以降は、加賀藩全体の物資の集散地として、また、北前船(バイ船)の寄港地としてさらに強まることとなった。港町には何軒もの廻船問屋が軒を連ね、藩の経済の一翼を担う富をもたらすまでに成長した。流通の拠点として水陸の両路の基盤整備が進み、高岡が米や綿、肥料など生活に必要な不可欠な物資の取引拠点として隆盛を極めた様子は、「加賀藩の台所」として後世に語り継がれている。



物資の取引拠点として富を得る一方、藩は町民が華美に流れるのを憂えていた。町民が贅沢を見做うと勤労を厭うようになり、経済の基本を脅かすと考え、平生の儉約令を発していた。しかしながら、お祭りを盛大に行うことは奨励していたため、町民にとってはお祭りの日を待ちわび、日々の抑圧された不満を緩和するものとして盛大に行ってきた。



御車山祭はその代表的なもので、七基の御車山には彫金・漆工・染織など高岡の伝統工芸の粋を集めた豪華な装飾が施されている。山車は利長が町民に分け与えたことに起源を持ち、当初は素朴なものであったが、各部材の製作・購入・修理等は、開町以来培われてきた町民の経済力・工芸技術によるものである。山車を持つ各町が競うように絢爛豪華な装飾を施しながら現代まで伝承されている姿は、自ら主体となって地域に貢献してきた町民の心意気を象徴するものである。



町民の心意気とものづくりの職人魂

町民自身が担い手となり、地域に富を還元し町の発展に貢献してきたことは、近代以降にあっても継承されていった。明治の文明開化といった全国的な時代の変遷を経ても、町民にとっては商売継続の望みを失うことなく、むしろ実力を存分に発揮する長年待ち望んでいた好機としてすら捉えられるものであった。事実、維新後は県庁の所在地ではないためのハンディキャップを負いながらも、常に県都に比



肩し日本海側屈指の商工都市として気を吐いている。とりわけ、鑄物業をはじめとする伝統産業は、繊細な技術やデザインを誇り、全国有数のものといっても過言ではない。

現在でも、町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに町民の歩みが独特の気風として色濃く残されている。競い合いながら発展を続けてきた町民の気質は、DNAとしてこの町に住む人々に受け継がれており、高岡はまだ発展の最中にある。歴史と文化の保存・継承のみならず、歴史資産を活かした取組みを進めながら、新たなまちの文化や魅力の創造に繋げていく。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	瑞龍寺	国宝・重要文化財 (建造物)	高岡開町の祖前田利長の菩提を弔うために建てられた曹洞宗寺院。外様大名の菩提寺としては壮大過ぎるとされるその理由には、前田利常にとっては、自身を次期藩主へ抜擢してくれたことに対する並々ならぬ恩義があったことや、高岡の町民に長く利長の遺徳をしのばせ、併せて町の繁栄を授ける意図を託したものと考えられる。	
2	前田利長墓所	国指定史跡	近世大名の個人墓所としては総面積約1万坪と、破格の規模を誇るものである。前田利常により造営され、瑞龍寺と墓所をつなぐ道路である八丁道と併せて整備された。ともに前田利長を偲ぶ意図が込められている。	
3	五福町神明社本殿	市指定文化財 (建造物)	慶安5年(1652)前田利常によって前田利長墓所に建てられた鎮守堂の遺構で、瑞龍寺の造営と並行するものであったことが明らかとなっている。この場所へは明治初年に移築された。	
4	大手町神明社拝殿	市指定文化財 (建造物)	五福町神明社本殿と同じく前田利長墓所に建てられた拝殿であり、明治維新による廃仏毀釈と神仏分離の動きを受けて分割して移築されたものである。	
5	高岡城跡	国指定史跡	築城技術が高度に発達した近世初頭の縄張りをほぼ完全な姿で留めている城跡である。廃城となった後も、高岡城本丸の殿閣撤去跡に新しく米塩の倉庫が建てられたことで城跡の荒廃を防ぐとともに、城下町から商工の町に転向する第一歩を歩んだ。	
6	前田利長公御親書	市指定文化財 (古文書)	高岡城の築城と城下町の建設に先立ち、その資材となる木材集散地として町立てした木町の成立に際し利長の厚い保護のあったことを示す史料であり、木町は、高岡の玄関口として重要な役割を果たしてきた。	
7	高岡御車山	重要有形民俗 文化財	高岡御車山は7基の山車で構成され、形式は二番町の車輪が2輪であることを除き、ほぼ酷似している。増減を許すことなく現代まで7基であり、高岡金工漆工の粋を集めた総合作品として高い美術工芸的価値を有するものである。	

8	高岡御車山祭の御車山行事	重要無形民俗 文化財	お祭りを盛大に行うのは加賀藩の政策であり、百姓町民にとっては神様に感謝祈念を込める行事であるとともに普段の儉約から解放される不満緩和の安全弁として機能した。町民自身が楽しむために自らの富を投資し、地域経済を動かしていたことが分かる代表的な行事である。
9	与四兵衛顕彰碑 (弥真進大人命旧跡)	—	津幡屋与四兵衛は、御車山と類似の山を作った近郊の町との騒動の際に、御車山の由緒を死守しようとした義人として山町の人々から崇められている。毎年4月3日に祭祀が行われている。
10	明和八年製高岡町図	市指定文化財 (古文書)	高岡の町図としては、現存する最古の部類の町図であり、明和年間の高岡町の街区、用水の状況、高岡城跡などが明記されている。所在地を明確にするとともに、米納地子地も記載されていることから、当時の農業生産力を知ることにも出来る重要な史料である。
11	山町筋重要伝統的建造物 群保存地区	重要伝統的建 造物群保存地 区	重厚かつ繊細な意匠を持つ土蔵造りの伝統的建造物が立ち並ぶ地区であり、近世初頭には米商会所が置かれ、綿市場の拠点として高岡の経済的な発展に大きく貢献した。高岡御車山を所有・継承していることから「山町」と呼ばれている。
12	菅野家住宅	重要文化財 (建造物)	菅野家住宅は、質の高い伝統的な町家が多く残る山町筋の建物の中でも、大規模で質の高いものとして評価を受けている。高岡政財界の中心的存在として財を築き、明治33年の大火にあっても直後に再建されるなど、高岡の隆盛を物語る土蔵造り建物の代表格である。
13	筏井家住宅	県指定文化財 (建造物)	筏井家住宅は、在来の町家にみられる伝統的技法を踏襲しながらも、塗壁による防火構造、洋風の構造・意匠を導入した質の高い建造物として貴重なものである。代々、綿糸などの卸商を営んでいた商家であり、山町の発展に寄与してきた。
14	土蔵造りのまち資料館 (旧室崎家住宅)	市指定文化財 (建造物)	旧室崎家住宅は、土蔵造りの大規模な町家の例であり、質が高く、背後の土蔵や庭など、屋敷の様子も旧状をよく留めている。もとは綿糸や綿布の卸商を営んでおり、今では資料館として公開されている。
15	金屋町重要伝統的建造物 群保存地区	重要伝統的建 造物群保存地 区	金屋町は、高岡開町に際し前田利長が鋳物師を招き、鋳物づくりを行わせたことに始まる鋳物師町である。装飾品や美術工芸品として銅鋳物が作られ、人々の多様なニーズを研究し、その需要に基づき努力を続けたことで、一大生産地としての発展を遂げた。

16	仁安の御綸旨	市指定文化財 (古文書)	鋳物師に対して全国に鍋・釜・鍬・鋤を販売することを命じ、そのため諸役を免除し全国通行の自由を保証した御綸旨であり、この御綸旨を活かして鋳物業に従事してきたことが窺える。
17	前田利長書状	市指定文化財 (古文書)	前田利長が高岡へ居城を移す際に、側近に命じた事項が記された史料であり、金屋町の発祥を示すだけでなく、町割りが武家地の屋敷割と同じ頃に行われていることを示しており、城下における金屋町の高い位置付けを指摘できる重要なものである。
18	有磯正八幡宮 (本殿・釣殿・拝殿及び幣殿)	登録文化財 (建造物)	金屋の氏神として、石凝姥命を祀っている。今も鋳物師たちの信仰を集めるものとして、「鍋宮様」とも呼ばれ、年に一度「御印祭」を行っている。祭には、前田利長の遺徳を偲ぶとともに、長く続いてきた鋳物業への感謝の意も含まれる。
19	銅造阿弥陀如来坐像	市指定文化財 (彫刻)	高岡大仏として市民に親しまれている銅製大仏であるが、元は木造であった。途中、資金難により銅製大仏での建立が中断するも、高岡銅器職人の献身的な動きと、市民の浄財により開眼供養に至った姿には、町民の町として発展した誇りが垣間見える。
20	高岡鋳物の製作用具及び製品	登録有形民俗 文化財	金屋町を中心に、江戸時代以来行われてきた鋳物製作に用いられた用具類とその製品を収集したものであり、高岡鋳物の製作技法の変遷を良く示す多様な用具が収集されており、鋳物生産の実態を示す貴重な史料である。
21	御印祭	—	有磯正八幡宮の神事であり、前田利長の遺徳を偲ぶための祭である。前夜祭には「弥栄節」と呼ばれる作業歌に合わせて町流しを行うなど、今でも引き継がれて行われている。
22	旧南部鋳造所キュポラ及び煙突	登録文化財 (建造物)	高岡の鋳物技術は、木製のふいご「たたら」を踏んで溶鉄や溶銅を得ていた手法から、新式溶鋳炉で鋳造する手法へ変遷していった。この建造物は、金屋町の近代化の歴史を示す遺構として貴重である。
23	梵鐘龍頭木型	市指定有形民俗 文化財	梵鐘を鐘楼の梁に吊るすために上蓋にしつらえた龍の形状の環状部を指し、戸出西部金屋に代々伝わっている。これは、戸出西部金屋に鋳物業が盛行したことを証明する資料ともなるものである。
24	戸出御旅屋の門	市指定文化財 (建造物)	前田利常により建てられ、御旅屋として主屋と3棟の土蔵棟で構成されていたと伝えられている。建物は明治に一部倒壊され、門だけが残されているが、江戸時代初期の御旅屋の面影を残すものとして貴重である。

25	勝興寺	重要文化財 (建造物)	勝興寺は、戦国期には越中における一向一揆の拠点寺として機能してきた。近世には本願寺や加賀前田家とも関係を強め、藩政期を通して門前地を寺内町として支配下に置いていた。寺内町が舟運業で賑わいを見せる中でも核としてその存在を示し、現在でも寺内町・港と一体となった景観的・経済社会的なつながりを伝えるものとして貴重である。
26	伏木港 (伏木浦)	—	北前船 (バイ船) の中継地で、近世・近代にいたるまで盛んに交易が行われ、日本海沿岸の重要な港湾施設として機能してきた。
27	伏木北前船資料館 (旧秋元家住宅)	市指定文化財 (建造物)	秋元家は、北前船の交易により繁栄した伏木地区にあり、当初は小宿 (船主や水夫等の宿泊施設) として、時代が下るにつれて廻船問屋として繁盛した。明治期の廻船問屋の屋敷や建物の様子をよく留める貴重な歴史建造物として一般公開されている。
28	棚田家住宅	登録文化財 (建造物)	棚田家住宅は、主屋、寄付待合、水屋、茶室及び三棟の土蔵で構成される建物群で伏木が北前船交易によって繁栄していたことを物語る廻船問屋の建造物である。
29	能松家住宅	登録文化財 (建造物)	吉久は、承応 4 年 (1655) に「吉久御収納蔵」と呼ばれる米蔵が建てられ発展を遂げた村であり、能松家住宅はその吉久地区のほぼ中央にある旧家である。江戸時代以来、米商を営み、財を成した。
30	有藤家住宅	登録文化財 (建造物)	有藤家住宅は吉久の西側に位置しており、建設当初の形式をよく保持している町家として貴重である。明治期には石灰俵編みと農業を生業としていた旧家である。
31	高岡商工会議所伏木支所	登録文化財 (建造物)	高岡商工会議所伏木支所は、明治 43 年 (1910) に伏木銀行として建てられた土蔵造りの建造物である。土蔵造りに洋風の意匠をふんだんに採り入れた銀行建築となっており、伏木みなど町の繁栄と近代化を象徴する代表的な建造物である。
32	伏木気象資料館 (旧伏木側候所庁舎・測風塔)	登録文化財 (建造物)	伏木の廻船問屋に生まれた大商人「藤井能三」によって、伏木港を航行する船舶の安全のための天候観測施設として建てられた。藤井能三は伏木地区、ひいては高岡の経済発展に尽力した者であり、当施設は全国初の私立測候所であるとともに、伏木港の近代化を物語るものとして貴重である。

33	丸谷家住宅	登録文化財 (建造物)	吉久地区は「御蔵」を中心にして町並みが築かれた地区である。丸谷家住宅は「米商」「蔵仲間」として有力な家の一つであった旧津和野家住宅を買い取ったもので、現在でも明治期の古い形態を良く残し、表構えも良好に保たれている貴重な建物である。
34	佐野家住宅	登録文化財 (建造物)	佐野家住宅はかつて高岡米穀取引所の仲買人組合長として活躍した「菅池貞次郎」が建設したものである。重厚な土蔵造りでありながら洋間や上げ下げ窓などに洋風要素を採り入れた姿には、町の発展に貢献してきた歴史を感じさせる。
35	清都酒造場	登録文化財 (建造物)	清都酒造場は、製造商品名「勝駒」の木製看板を主屋板庇に乗せ、現在も造り酒屋を営み続けている老舗である。明治33年(1900)の高岡大火以前の貴重な町家建築として酒屋らしい店構えを見せており、高岡の歴史を味わうことが出来る。
36	越中福岡の菅笠製作技術	重要無形民俗 文化財	加賀前田家5代当主前田綱紀が奨励したことから発展し、今に伝える越中福岡の菅笠製作技術。菅草の栽培から出荷までの全工程が一貫した生産体系で維持されている例は国内で唯一とも言え、当初の生産・製作形態を保ちながら継承する姿はまさに、『一人、技、心一』を伝えている。
37	菅笠問屋の町並み	— (景観形成重点 区域)	福岡の菅笠は江戸時代から加賀笠として広く知られるようになり、一大生産地として全国シェアの9割以上を占めるほどとなった。旧北陸街道沿いに伝統的な町並みが良く残っており、菅笠生産による賑わいを物語っている。
38	吉久重要伝統的建造物群 保存地区	重要伝統的建 造物群保存地 区	加賀藩直営の「御蔵」が設置された吉久は、北前船寄港地である伏木港から大坂・江戸へ積み出す廻米の集散地として、また、高岡の生活に必要な物資の取引拠点として、水陸の両路の基盤整備が進み、在郷町として発展した。

構成文化財の写真一覧

1 瑞龍寺



2 前田利長墓所



3 五福町神明社本殿



4 大手町神明社拝殿



5 高岡城跡



6 前田利長公御親書



7 高岡御車山



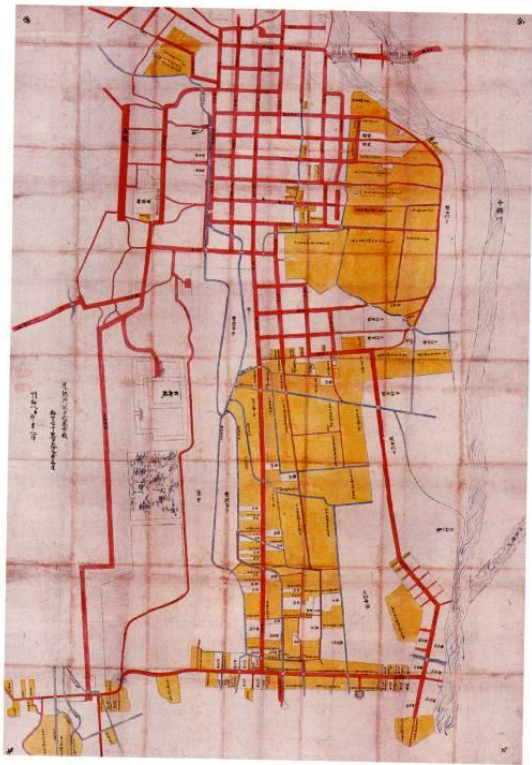
8 高岡御車山の御車山行事



9 与四兵衛頭彰碑



10 明和八年製高岡町図



11 山町筋重要伝統的建造物群保存地区



12 菅野家住宅



15 金屋町重要伝統的建造物群保存地区



13 筏井家住宅



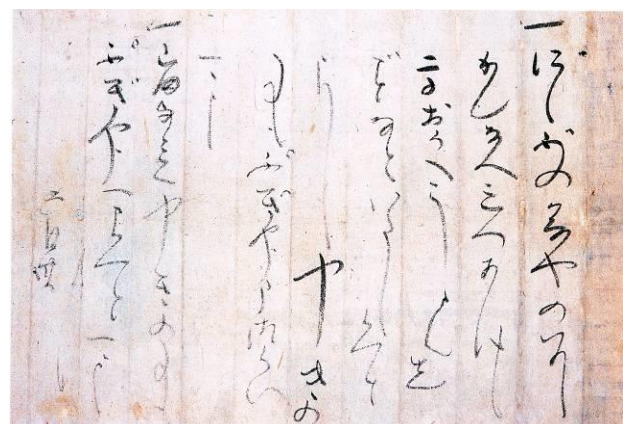
16 仁安の御綸旨



14 土蔵造りのまち資料館 (旧室崎家住宅)



17 前田利長書状



18 有儀正八幡宮



19 銅造阿弥陀如来坐像



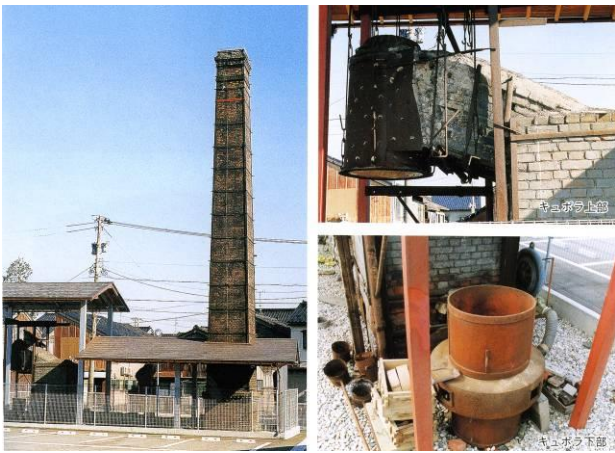
20 高岡鋳物の製作用具及び製品



21 御印祭



22 旧南部鑄造所キュボラ及び煙突



25 勝興寺



23 梵鐘龍頭木型



26 伏木港



24 戸出御旅屋の門



27 北前船資料館 (旧秋元家住宅)



28 棚田家住宅



31 高岡商工会議所伏木支所



29 能松家住宅



32 伏木気象資料館 (旧伏木側候所庁舎・測風塔)



30 有藤家住宅



33 丸谷家住宅



34 佐野家住宅



35 清都酒造場



36 越中福岡の菅笠製作技術



37 菅笠問屋の町並み



38 吉久重要伝統的建造物群保存地区



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

本市は、平成29年度から令和8年度を対象とした総合計画基本構想のなかで、「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる市民創造都市高岡」を将来像に掲げ、市民一人ひとりが高岡の強みを活かし、その力を最大限発揮し、観光・産業振興や地域の活性化を実現する都市となることを目指している。

高岡市の強みとは、「町民文化」＝文化力、「ものづくり産業」＝創造力、「高い地域力」＝市民力であり、日本遺産に認定された物語「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心一」においても、400年前の開町から現代まで引き継がれている市民の力、心意気を高岡市の強みとして描いている。

総合計画基本構想に掲げる将来像を踏まえ、日本遺産を活用した取組みにより、以下のようなまちの姿を目指していく。

- ・市民が本市の歴史・文化を学び、ほかの地域にない個性的な物語や、歴史的建造物・町並み・祭礼行事などの文化資源の価値を知り、誇りと愛着を持っている。地域外の知人や観光客に、その魅力を自ら語り、発信できるようになっている。
- ・歴史的な町並みや建造物を活用した飲食店、宿泊施設、土産物店などが増え、地域の複数の構成文化財をつなぐ公共交通案内や標識、モデルコースが整備され、観光客の滞在時間が長くなり、観光関係産業が賑わっている。
また、伝統的工芸品である高岡銅器、高岡漆器や越中福岡の菅笠の制作体験や見学ができる工場・工房や店舗が増え、職人との交流を通じて、その魅力を買手に伝えられるようになっている。つながる仕組みや場が増え、地場産品の販売額が増加したり、外部の人材と職人とがコラボレーションして新商品が開発されたりといった地域産業の活性化をもたらしている。
人と人とのつながりが増えることが、高岡ファンを増やし、ふるさと納税の増加、繰り返し高岡を訪れる関係人口の増加、そして移住者の増加につながっている。
- ・歴史・文化という地域資源が高岡の強みであると認識し、活用していくことで地域が活性化していくことが、多くの市民に理解されており、さらなる保存・継承の機運醸成につながるという好循環が生まれている。

(2) 地域活性化のための取組の概要

●組織整備

日本遺産連盟の中で積極的に役割を果たし、日本遺産サミットなど、全国の協議会と協力した取組みに参画し、日本遺産そのものの知名度向上に寄与するとともに、地域間連携の仕組みづくりに貢献する。

●戦略立案

本計画期間（令和3～5年度）においては、令和2年度に平成の大修理を終えた勝興寺と、重要伝統的建造物群保存地区に選定された吉久を含む高岡市北部エリアに焦点を当てた取組みを重点的に行う。瑞龍寺や、2つの重伝建地区を含む市街地に集中していた人の流れを北部エリアへと拡げ、北部エリアを周遊する観光客を増やす。市内での滞在時間を延ばすことで、地域への経済効果を高めるとともに、訪れた観光客の満足度を高めることを目指す。

さらに、ものづくりのまち、工芸都市、加賀前田家ゆかりのまちなどのテーマを共有する近隣の都市と連携した商品開発やPR事業に取り組んでいく。

これらの戦略を、地域の交通事業者、旅行事業者、宿泊事業者、ボランティアガイドや、DMOと共有するとともに、有識者からの評価を受け、各施策の進捗管理を行っていく。

●人材育成

日本遺産認定を受けた平成27年度以降、有償ガイド数は増え、活動実績も増加しているが、高齢化が進んでいることから、継続して新規ガイドの育成に取り組む。また、インバウンド対応のため、外国語によるガイド講習などを実施するなど、ガイドのスキルアップと持続的な体制づくりを図る。あわせて観光客がガイドを安心して利用してもらえるような仕組みづくりの構築に取り組む。

大学との連携によりまちづくりに関わる学生を増やし、将来の担い手を育成する（詳細は後述）。

●整備

市北部エリアにおいて、勝興寺の文献資料の調査や、認定を受けたストーリーとの関わりがわかる吉久の多言語まち歩きマップの整備、AR技術を活用した楽しく歩ける歩行空間の創出（伏木地区ストリート構想）などに取り組み、市民や観光客が地域の歴史・文化をより深く理解できる環境を整備する。

また、これまでの6年間の取組みにより、中心市街地である山町筋（重伝建）、金屋町（重伝建）においては、歴史的建造物を活用した観光客向けの飲食店や宿泊施設が増加してきた。本計画期間においては、商都高岡を象徴する旧高岡共立銀行（山町筋）の保存活用計画を策定し、山町筋エリアの新たな魅力向上に取り組む。

●観光事業化

①市北部エリアの磨き上げ

23年に及ぶ修理を終えた勝興寺、重伝建に認定された吉久などの北部エリア重点を置き、登録DMO等と連携し、観光客の集客・周遊を促進する企画を実施する。

②市外の周辺地域と連携した旅行商品の開発やPR事業に取り組む。

インバウンドを含めた域外からの観光客の増加と、域内相互の交流人口・マイクロツーリズムの増加を図る。

- ・加賀藩以来の前田家ゆかりの歴史・文化を共有する地域（金沢市・富山県西部6市）との連携
- ・北陸の工芸産地（金沢市、小松市など）とつなぐ周遊パスポート造成
- ・ものづくり産地（燕市、三条市、越前市など）と連携した多言語PR
- ・文化遺産や歴史的建造物・祭礼でつながる七尾市（キリコ）、白川郷、高山市、五箇山への高速バス運行

③新型コロナウイルス感染症による新たな動向、北陸新幹線敦賀開業を見据えた誘客

- ・県内・近隣県からのマイクロツーリズムや少人数～一人旅が増加する傾向を捉え、個人客への対応を強化する。
- ・教育旅行の訪問先が、定番の地域以外にシフトする動きがあることから、この動きを捉え、本市の歴史・文化やものづくりをテーマとした商品の提案を行う。
- ・北陸新幹線敦賀開業を見据え、関西方面へのプロモーションを強化する。

●普及啓発

平成29年度に高岡御車山祭が行われる5月1日を「高岡の歴史文化に親しむ日」と定め、小・中・特別支援学校を休業とし、祭礼行事を肌で感じ、体感する機会を設けている。また、この日にあわせ、短歌・俳句など、高岡の歴史・文化に関する作品を募集し、表彰・展示を行っている。さらに市内の歴史的な建物を巡るスタンプラリーを実施するなど、児童・生徒が歴史・文化を学ぶプログラムを実施しており、これらを今後も継続する。

地元の高校・大学で日本遺産に関する講義や、学生と連携して情報発信を行うなど、普及啓発とともに、若い世代への情報発信を促進する。

市民に対しては、日本遺産構成文化財や商店街への「日本遺産」のぼり旗等の掲出、高岡駅ステーションビル等の壁面を利用した「日本遺産」の案内、出前講座の開催等、今後も継続的に「日本遺産のまち高岡」の周知を図る。

また、日本遺産の日など時機を捉えたイベントを実施し、その都度、市広報紙、テレビ番組、インターネット動画、高岡市公式SNS、地元新聞への記事の掲載依頼などにより露出を増やし、日本遺産のまち高岡に対する市民の誇りと愛着を育むとともに、日本遺産のイメージキャラクターの公開・利用促進など、市民が主体的に行う高岡の魅力発信を促進する。

●情報編集・発信

既存のウェブサイト（高岡市公式、高岡市観光協会公式）の継続活用に加え、関係団体内でハッシュタグを共有するなど、SNSでの発信力・拡散力を強化する。

(3) 自立的・継続的な取組

1. 個別計画への日本遺産の位置づけ

総合計画の下にある各個別計画に、日本遺産の活用を組み込んでおり、さまざまな主体が、計画に基づいて日本遺産を活用した取組みを推進していく。

随時、有識者からの評価を受け、進捗管理を行う。

(参考)

・第2期高岡市歴史的風致維持向上計画（高岡市歴史まちづくり計画）(R3～12年)

第1期計画の期間内（平成23年～令和2年度）に、日本遺産認定を受けたことを踏まえ、第2期において風致の考え方を変更したところ。（加賀藩と町民が共に高岡の発展に努めてきたという歴史が日本遺産の認定に結び付いたこと、市民にそのストーリーが浸透していることを踏まえ、第1期計画において藩の政策と町民の活動という観点から2つに分かれていた歴史的風致を統合した）

「工芸技術、祭礼・年中行事」「歴史的建造物等」「歴史的な町並み」の保存と、観光資源としての活用に取り組むことを明記している。

・文化創造都市高岡振興ビジョン（H27～R6年）

市民が歴史・文化の魅力を「知る」、市外に「伝える」という2つの戦略を明記している。

2. 協力団体への働きかけ

「日本遺産」の地域資源としての価値を評価し、経済、観光のそれぞれの分野で日本遺産を活用した取組みやPR事業を行うことが、ひいては本市への観光客の増加、地域全体の活性化につながるということを踏まえ、経済関係団体、観光関係団体に対し、日本遺産を活用した観光振興、地域振興への協力を継続的に働き掛けていく。自己事業として日本遺産に関する活動を行う協力団体の取組み数を「指標」として定める。

3. DMOの育成・支援

日本遺産に認定された高岡の歴史物語に精通した地域プロデューサーが中心となり、令和元年5月に富山県西部を対象エリアとした候補DMOが設立され、補助金に頼らない事業活動を開始している。富山県西部地域は加賀前田家ゆかりのエリアであり、この地域特有の歴史・文化やものづくりなどをテーマとした付加価値の高い旅行商品の造成・販売に取り組むことが、同候補DMOの事業方針の1つとして示されている。コロナ禍のなかで、地元産品のオンライン販売や、地元産品を事前送付したうえでのオンラインツアーなど、旅行前・旅行後のつながりに注目し、関係を継続しながら、満足度を高める新たな旅行商品を造成している。

今後、同法人との連携を強化するとともに、同組織が活動を拡大する中で、新たな地域プロデューサーが育つよう支援する。

4. 教育機関との連携による将来の中核人材の育成

小・中・特別支援学校でものづくりデザイン科、歴史文化に親しむ日などのプログラムを通して、ものづくりのまち高岡という地域固有の歴史・文化を学び、また地域の伝統工芸の担い手と交流するプログラムを実施することで、次世代の育成を図る。

また、市内に立地する富山大学芸術文化学部との連携により、将来のまちづくりの担い

手となる人材を確保する。同学部では、本市の歴史・文化や観光、都市計画に係る本市の取組みを学び、地域活性化の提案を行う授業を教育課程に組み入れている。さらに、高岡市の歴史的な町並みを舞台に、高岡の魅力を発信する「クラフト市場街」「ミラレ金屋町」などのイベントの実行委員会に、学生が参加し、住民、職人、作家らと交流しながら、主体的に地域の活性化に関わっている（実行委員として参加することで単位を取れる仕組みが設けられている）。今後もこうした取組みを続け、学生時代から地域と関わる機会を設けることで、次世代のまちづくり人材を育成し、地域に中核人材が残っていくサイクルを構築する。

5. 有償ガイドの育成・支援

有償ガイド実績（件数）を増加させ、自立的な運営ができるよう、PRとあわせガイドの育成・質の向上に取り組む。

6. その他

ふるさと納税において歴史・文化資源の保全活用に係るメニューを追加する。

人々の愛着と関心を高めるとともに、環境整備や魅力の発信に継続して取り組む。

(4) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

- ・ 地元住民が進んで紹介したくなるようなまちの整備、普及啓発の実施。
- ・ 高岡市への観光客入込数、宿泊者数の増加により、観光産業が活性化し、まちが賑わうことで、歴史的風致を形成する建造物の所有者や重伝建エリアに住む地域住民の保存及び活用への意識の向上につながる。
- ・ ふるさと納税において歴史・文化資源の保全活用に係るメニューを追加し、歴史・文化資源の保全・活用に利用する。
- ・ 小・中・特別支援学校の児童・生徒を対象とした取組みを継続し、本市の歴史文化に愛着と誇りを持つ児童・生徒を育成し、未来への伝承者や理解者が育つ環境を維持する。

(5) 他の観光施策との連携

・ 第3期高岡市観光振興ビジョン（R3～7年）

今後の視点として、「日本遺産をはじめとした高岡の強みの更なるアピール、ブランディング」を位置づけている。

4つの戦略のうちの2つとして「高岡ストーリーで呼び込む観光まちづくり」「高岡ブランドで好奇心をくすぐる観光まちづくり」を定め、「地域資源を活かした魅力あるまちづくり」を進めることとしている。

なかでも、基本戦略3「高岡ブランドで好奇心をくすぐる観光まちづくり」において、「日本遺産をはじめ、他地域にはない資源を、魅力ある観光商品として提供できるようなブランディング、誘客の仕組みを構築する。」と明記している。

ターゲットとして、40～50代夫婦、20～30代女性等をターゲットに、歴史・文化を楽しめる旅行の提案を行っていくほか、ものづくりに関心のある高感度消費者をターゲットにした伝統産業の観光展開、台湾・欧米をターゲットとしたインバウンド回復に向けた取り組みなど、日本遺産を活用した観光振興施策に取り組むこととしている。

- ・登録DMOと連携し、市北部エリア磨き上げ、インバウンド強化事業に取り組む。

(6) 実施体制

1. 主体：日本遺産推進協議会（企画・実施・進捗管理）

- ・高岡市（文化創造課、観光交流課、景観みどり課、秘書課広報広聴室、産業企画課、共創まちづくり課）
- ・市教育委員会（文化財保護活用課）
- ・高岡商工会議所
- ・近世高岡の文化遺産を愛する会
- ・住民主体の保存・まちづくり団体（瑞龍寺周辺、山町筋、金屋町、勝興寺周辺、吉久）

<主な役割>

総括・普及啓発：高岡市文化創造課

観光事業化：高岡市観光交流課

文化財保存・活用：

高岡市教育委員会文化財保護活用課ほか

2. 評価

- ・総合計画審議会総会（有識者）
- ・歴史まちづくり協議会（有識者）
- ・文化創造都市高岡推進懇話会（有識者）

[民間事業者との連携]

協議会と連携し、日本遺産を活用した事業を実施する。

<観光関係>

- ・観光協会…有償観光ガイドの育成、体験コンテンツ等の商品の造成、販売。
- ・登録DMOとやま観光推進機構…旅行商品の造成、販売。
- ・候補DMOとやま県西部観光社…地域プロデューサーが中心となって運営。歴史・文化やものづくりをテーマとした高付加価値ツアーの造成、販売。

<経済関係>

- ・(株)高岡ステーションビル…日本遺産のまち高岡のPR

- ・オタヤ開発（株）…日本遺産のまち高岡のPR
- ・末広開発（株）…日本遺産のまち高岡のPR
- ・高岡ケーブルネットワーク（株）…テレビ番組、5G技術等を活用した日本遺産のまち高岡のPR
- ・御旅屋商店街振興組合…日本遺産のまち高岡のPR

<教育関係>

- ・富山大学（芸術文化学部）など、地域の教育機関…普及啓発・情報発信・人材育成

<その他>

- ・たかおか観光戦略ネットワーク（交通事業者、旅行事業者、宿泊事業者、ボランティアガイドなど）…旅行商品の造成、磨き上げなど
- ・アート&クラフトシティ高岡推進委員会（市民・事業者）…職人と観光客の交流体験コンテンツの造成など

(7) 地域活性化計画における目標と期待される効果

期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の歴史・文化への理解が深まり、誇りに思う児童・生徒が増え、高岡の魅力を自ら語ることのできる市民や、日本遺産を活用した取組みを自発的に行う事業者が増えることで、市全体としての発信力が高まる。 ・ 高岡市への観光客入込数、宿泊者数が増加し、観光産業が活性化し、まちが賑わう。また、伝統的工芸品の販売額の増加や新商品の開発など地場産業の活性化にもつながる。 ・ 歴史・文化という地域資源を活用した地域活性化の効果が目に見えてあらわることにより、歴史・文化資源の保存・継承の機運醸成につながるという好循環が生まれる。
---------	--

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化

観光客入込み数		具体的な指標：観光客入込み数（千人）※暦年				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	3,850	3,714	1,828	3,904	3,922	3,940
目標値の設定の考え方及び把握方法	北陸新幹線開業年からの3年間の増加数の平均伸び率から漸増を図る（市内施設、イベント主催者からの聞き取り）					
関連事業	1-③、2-①②、3-①②、4-①②③④⑤⑥⑦、5-①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、7-①②					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化

外国人観光客数		具体的な指標：外国人観光客宿泊者数（人）※暦年				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	10,511	11,394	2,414	12,565	13,250	13,935
目標値の設定の考え方及び把握方法	北陸新幹線開業年からの3年間の増加数の平均伸び率から漸増を図る（観光庁「宿泊旅行統計調査」）					

関連事業	1-③、2-①②、3-①②、4-①②④⑤⑦、5-①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、7-①②
------	---

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
宿泊者数		具体的な指標：市内宿泊者数（千人）※暦年				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和 1 年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
数値	303	309	167	312	316	320
目標値の設定の考え方及び把握方法	直近の観光入込数に占める宿泊者数の割合の漸増を図る 観光庁「宿泊旅行統計調査」					
関連事業	1-③、2-①②、3-①②、4-①②③④⑤⑦、5-①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、7-①②					

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
地域の文化に誇りを感じる住民の割合		具体的な指標：「ものづくり・デザイン科」や「高岡の歴史文化に親しむ日」の事業を通じ、郷土に誇りを持ったり、高岡の良さを再発見したりすることができたと思う児童・生徒の割合（％）				
年度	実績			目標		
	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
数値	91	92	—	90	90	90
目標値の設定の考え方及び把握方法	すでに高い水準を維持しており、継続して 90%以上を保つことを目標として設定する。					
関連事業	4-②⑤、5-⑬、6-①②③④⑤、7-①②					

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
日本遺産のためのふるさと納税額		具体的な指標：歴史・文化資源の保全・活用・発信を目的としたふるさと納税額（千円）				
年度	実績			目標		
	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
数値	0	0	0	1,000	2,000	3,000

目標値の設定の考え方 及び把握方法	令和元年度の本市へのふるさと納税で、「平成の御車山利活用事業」に1,385千円の寄付があったことを参考に設定する。
関連事業	1-②③、2-①②、3-①②、4-①②、5-①②③④⑤⑥⑧⑬⑭⑮⑯、7-①②

設定目標Ⅳ：その他						
日本遺産への協力団体数		具体的な指標：協力団体が行う日本遺産に関する取組み数				
年度	実績			目標		
	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
数値	—	—	7	10	12	14
目標値の設定の考え方 及び把握方法	R2年度実績に対し、3年間で倍増させることを目標に設定する。					
関連事業	1-①②③、2-①②、3-①②、4-①②④⑤、5-①②③④⑤⑥⑧⑨⑩⑬⑭⑮、6-①②③④⑤、7-①②					

(8) 地域活性化のために行う事業

(8) - 1 組織整備

(事業番号 1 - ①)

事業名	民間主体での日本遺産関連事業の実施の推進		
事業内容	さまざまな関係団体に日本遺産に関する情報提供や取組みの実施依頼を行い、自己事業として日本遺産に関する活動を行う協力団体の取組み数を増やす。		
実施主体	高岡市日本遺産推進協議会		
事業期間	令和 3～5 年		
事業評価指標	法人パートナー数	具体的な指標	協力団体が行う日本遺産に関する取組み数
実績値	平成 30 年度：—	令和 1 年度：—	令和 2 年度：7
目標値	令和 3 年度：10	令和 4 年度：12	令和 5 年度：14
事業費	令和 3 年度：0	令和 4 年度：0	令和 5 年度：0

(事業番号 1 - ②)

事業名	ふるさと納税項目追加		
事業内容	歴史・文化の保全・活用・発信を目的としたふるさと納税の項目を追加し、納税を呼び掛けるチラシやポスターを文化財施設に設置。SNS でも寄付を呼び掛ける。ふるさと納税してくれた方へ、日本遺産のストーリーを紹介するパンフレットや QR コード付きのオリジナルキャラクターシールを送り、取り組みへの理解とさらなる寄附が得られるよう働きかける。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3～5 年		
事業評価指標	収益事業の実施（ふるさと納税）	具体的な指標	歴史・文化の保全・活用・発信を目的としたふるさと納税額
実績値	平成 30 年度：—	令和 1 年度：—	令和 2 年度：—
目標値	令和 3 年度：1,000	令和 4 年度：2,000	令和 5 年度：3,000
事業費	令和 3 年度：0	令和 4 年度：0	令和 5 年度：0

(事業番号 1 - ③)

事業名	日本遺産連盟との連携事業
事業内容	全国の日本遺産認定協議会が加盟する日本遺産連盟のなかで役割を果たし、日本遺産サミットの開催などに積極的に参画する。日本遺産の知名度向上に向けての活動のほか、情報交換・地域間連携を行うためのプ

	ラットフォーム形成にも努める。		
実施主体	高岡市日本遺産推進協議会		
事業期間	令和 3～5 年		
事業評価指標	法人パートナー数	具体的な指標	協力団体が行う日本遺産に関する取組み数
実績値	平成 30 年度 : —	令和 1 年度 : —	令和 2 年度 : 7
目標値	令和 3 年度 : 10	令和 4 年度 : 12	令和 5 年度 : 14
事業費	令和 3 年度 : 100	令和 4 年度 : 100	令和 5 年度 : 100

(8) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - ①)

事業名	たかおか観光戦略ネットワーク事業		
事業内容	交通事業者、旅行事業者、宿泊事業者、ボランティアガイドなどが連携し、高岡市観光振興ビジョンの進行管理を行うとともに、日本遺産を活用した観光振興の方針を共有する。また、おもてなしエキスパートの認定など具体的な事業に取り組む。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	地域コンセプトの浸透度 (内)	具体的な指標	協力団体が行う日本遺産 に関する取組み数
実績値	平成 30 年度：—	令和 1 年度：—	令和 2 年度：7
目標値	令和 3 年度：10	令和 4 年度：12	令和 5 年度：14
事業費	令和 3 年度：800	令和 4 年度：800	令和 5 年度：800

(事業番号 2 - ②)

事業名	北部エリア磨き上げ事業		
事業内容	登録 DM0 とやま観光推進機構と連携し、勝興寺・吉久を中心にした北部エリア地域におけるモデルコースの提案・周知、寺宝展などの特別企画、交通事業者への広告出稿など、観光資源の発掘、磨き上げのためのリーディングプロジェクトを企画し、モデル的に実施する。結果を分析し、事業化を図る。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	地域コンセプトの浸透度 (内)	具体的な指標	協力団体が行う日本遺産 に関する取組み数
実績値	平成 30 年度：—	令和 1 年度：—	令和 2 年度：7
目標値	令和 3 年度：10	令和 4 年度：12	令和 5 年度：14
事業費	令和 3 年度：3,000	令和 4 年度：3,000	令和 5 年度：3,000

(8) - 3 人材育成

(事業番号3-①)

事業名	ガイドの育成事業		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の観光ガイドのノウハウの共有化 ・興味を引き付けるガイド技術の向上に係る講座の実施 ・ガイド活用の仕組みづくり など 		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プレイヤー数	具体的な指標	有償ガイドによるガイド件数(件)
実績値	平成30年度：978	令和1年度：841	令和2年度：集計中
目標値	令和3年度：980	令和4年度：980	令和5年度：990
事業費	令和3年度：3,000	令和4年度：3,000	令和5年度：3,000

(事業番号3-②)

事業名	日本遺産ガイドの育成		
事業内容	日本遺産の物語を説明できる観光ガイドの育成講座を行う。①市民対象の一般講座、②企業対象の職員向け講座、③外国語ガイド育成		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プレイヤー数	具体的な指標	有償ガイドによるガイド件数(件)
実績値	平成30年度：978	令和1年度：841	令和2年度：集計中
目標値	令和3年度：980	令和4年度：980	令和5年度：990
事業費	令和3年度：387	令和4年度：387	令和5年度：387

(8) - 4 整備			
(事業番号 4 - ①)			
事業名	日本遺産パンフレット作成		
事業内容	日本遺産のストーリーを「ものづくり」「町民文化」の2つの角度で学び、観光できるモデルルートを提案するパンフレットを更新・増刷する。		
実施主体	高岡市日本遺産推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の滞在時間の増加	具体的な指標	市内宿泊者数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度：303 令和1年度：309 令和2年度：167		
目標値	令和3年度：312 令和4年度：316 令和5年度：320		
事業費	令和3年度：1,000 令和4年度：0 令和5年度：0		
(事業番号 4 - ②)			
事業名	吉久地区多言語パンフレット作成		
事業内容	吉久は昨年12月に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、市内外からの注目が高まり、住民の保存・活用への関心も高まっている。日本遺産の全体ストーリーの中での同地域の位置づけや、魅力が伝わる多言語パンフレットを作成する。		
実施主体	高岡市日本遺産推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の滞在時間の増加	具体的な指標	市内宿泊者数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度：303 令和1年度：309 令和2年度：167		
目標値	令和3年度：312 令和4年度：316 令和5年度：320		
事業費	令和3年度：2,224 令和4年度：0 令和5年度：0		
(事業番号 4 - ③)			
事業名	勝興寺保存活用事業(文献調査)		
事業内容	令和2年度に23年に及ぶ平成の大修理を終え、注目が集まっている勝興寺にまつわる文献資料を調査し、日本遺産のストーリーを強化するサブストーリーを検討する。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	勝興寺来場者数(千人)
実績値	平成30年度：19,533 令和1年度：20,656 令和2年度：—		
目標値	令和3年度：25,500 令和4年度：28,050 令和5年度：30,855		

事業費	令和3年度：1,000	令和4年度：1,000	令和5年度：1,000
-----	-------------	-------------	-------------

(事業番号4-④)

事業名	誘導標識設置等事業		
事業内容	観光案内看板を設置・更新し、本市を訪れる観光客の利便性を図る。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の滞在時間の増加	具体的な指標	市内宿泊者数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度：303 令和1年度：309 令和2年度：167		
目標値	令和3年度：312 令和4年度：316 令和5年度：320		
事業費	令和3年度：664	令和4年度：664	令和5年度：664

(事業番号4-⑤)

事業名	ストリート整備事業		
事業内容	市内に設置する広域案内看板で、観光名所の掲載箇所に日本遺産の構成文化財を紹介する。 高岡ストリート構想、伏木地区ストリート構想において、高岡の歴史、文化資産を散策するルートを複数設定しており、その中で日本遺産の構成文化財を多数紹介している。ストリート構想に位置付けているゾーンやルートに、デジタル技術などを用いて、その地域の文化や歴史を体感できるような取り組みを行い、歴史、文化資産を感じながら楽しく歩ける歩行空間の創出を図る。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の滞在時間の増加	具体的な指標	市内宿泊者数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度：303 令和1年度：309 令和2年度：167		
目標値	令和3年度：312 令和4年度：316 令和5年度：320		
事業費	令和3年度：5,000	令和4年度：5,000	令和5年度：5,000

(事業番号4-⑥)

事業名	赤レンガの銀行建物活用調査事業		
事業内容	町民によって繁栄した商都高岡の日本遺産ストーリーにおいて、経済の中心地と位置付けられるのが山町であり、特に旧北陸道沿いの町を「山町筋」と呼び、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。この通りを象徴する建造物の1つである「旧高岡共立銀行」建物の保存活用計画の策定を行い、構成文化財の継承を、確実に進めていく。		
実施主体	高岡市		

事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の滞在時間の増加	具体的な指標	市内宿泊者数（千人） ※暦年
実績値	平成 30 年度：303 令和 1 年度：309 令和 2 年度：167		
目標値	令和 3 年度：312 令和 4 年度：316 令和 5 年度：320		
事業費	令和 3 年度：18,202 令和 4 年度：0 令和 5 年度：0		

事業番号 4 - ⑦)

事業名	施設の環境整備		
事業内容	洋式トイレの整備、Wi-Fi 整備、多言語による案内板の整備など		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の滞在時間の増加	具体的な指標	市内宿泊者数（千人） ※暦年
実績値	平成 30 年度：303 令和 1 年度：309 令和 2 年度：167		
目標値	令和 3 年度：312 令和 4 年度：316 令和 5 年度：320		
事業費	令和 3 年度：3,000 令和 4 年度：3,000 令和 5 年度：3,000		

(8) - 5 観光事業化			
(事業番号5-①)			
事業名	勝興寺保存活用計画 (GO FOR KOGEI)		
事業内容	構成文化財・勝興寺を舞台に、現代アートの工芸作品を展示し、新たな観光客の増加を図る。また、北陸の工芸都市(金沢、小松、越前など)と連携した周遊パスポートを作り、日英二か国語で魅力発信を行う。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和3年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	勝興寺来場者数(千人)
実績値	平成30年度: 19,533	令和1年度: 20,656	令和2年度: —
目標値	令和3年度: 25,500	令和4年度: 28,050	令和5年度: 30,855
事業費	令和3年度: 2,000	令和4年度: 0	令和5年度: 0
(事業番号5-②)			
事業名	金沢・富山県西部地区広域観光推進(加賀藩ゆかりの地連携)		
事業内容	金沢市と富山県西部6市という加賀藩ゆかりの地が連携し、エリアを周遊する旅行商品の造成や、協働でのPRに取り組む。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度: 3,850	令和1年度: 3,714	令和2年度: 2,102
目標値	令和3年度: 3,904	令和4年度: 3,922	令和5年度: 3,940
事業費	令和3年度: 400	令和4年度: 400	令和5年度: 400
(事業番号5-③)			
事業名	まちなか歴史資産魅力向上事業		
事業内容	日本遺産構成文化財において歴史体感プログラムを実施し、観光商品としての定着・開発を図る。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度: 3,850	令和1年度: 3,714	令和2年度: 2,102
目標値	令和3年度: 3,904	令和4年度: 3,922	令和5年度: 3,940
事業費	令和3年度: 100	令和4年度: 100	令和5年度: 100

(事業番号 5-④)

事業名	観光宣伝事業		
事業内容	出向宣伝、雑誌への広告出稿などを行う。日本遺産構成文化財を含む記事を掲載する場合はロゴマークの掲載や、ストーリーを伝えるウェブサイトへのリンクなどを通じ、他文化財への周遊促進を図る。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数 (千人) ※暦年
実績値	平成 30 年度 : 3,850	令和 1 年度 : 3,714	令和 2 年度 : 2,102
目標値	令和 3 年度 : 3,904	令和 4 年度 : 3,922	令和 5 年度 : 3,940
事業費	令和 3 年度 : 17,872	令和 4 年度 : 17,872	令和 5 年度 : 17,872

(事業番号 5-⑤)

事業名	団体旅行誘致促進事業		
事業内容	日本遺産の構成文化財を含めた「秋の文化財特別公開」「春の祭商品」など、特別感を出した旅行商品の造成支援を行う。 また、定番の就学旅行先から、別の地域に関心がシフトしつつある教育旅行の需要を取り込むため、日本遺産の歴史・文化、ものづくり体験を含めた旅行商品の造成に向けた PR を強化する。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数 (千人) ※暦年
実績値	平成 30 年度 : 3,850	令和 1 年度 : 3,714	令和 2 年度 : 2,102
目標値	令和 3 年度 : 3,904	令和 4 年度 : 3,922	令和 5 年度 : 3,940
事業費	令和 3 年度 : 50,000	令和 4 年度 : 20,000	令和 5 年度 : 20,000

(事業番号 5-⑥)

事業名	個人旅行誘客強化事業		
事業内容	多言語観光情報サイトへの PR 記事出稿、テーマを絞った情報誌への PR 記事出稿などを実施。日本遺産ロゴマークの掲載や、ストーリーを伝えるウェブサイトへの誘導などを図り、多様な文化財への周遊促進を図る。富山県と連携して観光客向けの英語対応チャットボットを整備し、質問に迅速に回答できる体制を作る。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数 (千人) ※暦年

実績値	平成 30 年度 : 3,850	令和 1 年度 : 3,714	令和 2 年度 : 2,102
目標値	令和 3 年度 : 3,904	令和 4 年度 : 3,922	令和 5 年度 : 3,940
事業費	令和 3 年度 : 25,435	令和 4 年度 : 10,000	令和 5 年度 : 10,000

(事業番号 5-⑦)

事業名	新高岡駅利用促進観光バス事業		
事業内容	日本遺産に認定されている高山市、七尾市（キリコ祭り）や、世界遺産に認定されている五箇山・白川郷と高岡市とつなぐ高速バスの運行補助を行い、歴史・文化に関心のある観光客の周遊促進を図る。南砺市、氷見市、七尾市、富山県等との連携事業。		
実施主体	高岡市、高岡和倉間高速バス路線維持対策協議会		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数（千人） ※暦年
実績値	平成 30 年度 : 3,850	令和 1 年度 : 3,714	令和 2 年度 : 2,102
目標値	令和 3 年度 : 3,904	令和 4 年度 : 3,922	令和 5 年度 : 3,940
事業費	令和 3 年度 : 13,700	令和 4 年度 : 7,300	令和 5 年度 : 7,300

(事業番号 5-⑧)

事業名	新高岡駅利用促進事業		
事業内容	新高岡駅発着の旅行商品造成に対する支援を行う。 前田家ゆかりの文化遺産を含む商品が造成される場合が多数であり、日本遺産ロゴマークの掲載や、ストーリーを伝えるウェブサイトへの誘導などを図り、他文化財への周遊促進を図る。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数（千人） ※暦年
実績値	平成 30 年度 : 3,850	令和 1 年度 : 3,714	令和 2 年度 : 2,102
目標値	令和 3 年度 : 3,904	令和 4 年度 : 3,922	令和 5 年度 : 3,940
事業費	令和 3 年度 : 12,690	令和 4 年度 : 500	令和 5 年度 : 500

(事業番号 5-⑨)

事業名	万葉線利用促進事業		
事業内容	路面電車・万葉線沿線に位置する日本遺産構成文化財である①山町筋（重伝建）と、昨年 12 月に重伝建の選定を受けた②吉久地区を PR し、万葉線を活用した観光客の周遊促進を図る。		
実施主体	万葉線対策協議会		

事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数（千人） ※暦年
実績値	平成 30 年度：3,850	令和 1 年度：3,714	令和 2 年度：2,102
目標値	令和 3 年度：3,904	令和 4 年度：3,922	令和 5 年度：3,940
事業費	令和 3 年度：100	令和 4 年度：100	令和 5 年度：100

(事業番号 5-⑩)

事業名	城端・氷見線イメージアップ事業		
事業内容	高岡駅を起点として運行されている JR 城端線・氷見線の沿線にある日本遺産構成文化財の紹介、構成文化財を活用したイベントとの連携を行うことで、文化財を巡る観光客の移動意欲を促し、周遊促進を図る。		
実施主体	城端・氷見線活性化推進協議会		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数（千人） ※暦年
実績値	平成 30 年度：3,850	令和 1 年度：3,714	令和 2 年度：2,102
目標値	令和 3 年度：3,904	令和 4 年度：3,922	令和 5 年度：3,940
事業費	令和 3 年度：100	令和 4 年度：100	令和 5 年度：100

(事業番号 5-⑪)

事業名	インバウンド強化事業		
事業内容	認定当初よりターゲットとしてきた台湾に向けて SNS 等での情報発信を行う。また、燕市、三条市、越前市と連携し、海外に向けて、日本海側のものづくりの町としての魅力発信を行う。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	外国人観光客の入込数	具体的な指標	外国人観光客宿泊者数 （人）※暦年
実績値	平成 30 年度：10,511	令和 1 年度：11,394	令和 2 年度：2,414
目標値	令和 3 年度：12,565	令和 4 年度：13,250	令和 5 年度：13,935
事業費	令和 3 年度：1,680	令和 4 年度：1,000	令和 5 年度：1,000

(事業番号 5-⑫)

事業名	キャッシュレス化		
事業内容	構成文化財である山町筋、金屋町や、高岡駅・伏木駅周辺などの商店街店舗、御車山会館などの施設において、キャッシュレス決済機器等を整備し、インバウンド観光客にスムーズに対応できる体制を整える。		

実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度:3,850	令和1年度:3,714	令和2年度:2,102
目標値	令和3年度:3,904	令和4年度:3,922	令和5年度:3,940
事業費	令和3年度:553	令和4年度:553	令和5年度:553

(事業番号5-⑬)

事業名	新たな芸術文化創造推進事業(アート&クラフトシティ高岡推進事業)		
事業内容	歴史的なまちなみを舞台に、クラフト・工芸をテーマに、住民、大学生、職人、アーティストらが協力し、高岡の魅力を発信するイベントを実施する(工芸都市高岡の秋・クラフト市場街)		
実施主体	高岡市、アート&クラフトシティ高岡推進委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度:3,850	令和1年度:3,714	令和2年度:2,102
目標値	令和3年度:3,904	令和4年度:3,922	令和5年度:3,940
事業費	令和3年度:3,000	令和4年度:3,000	令和5年度:3,000

(事業番号5-⑭)

事業名	中核施設等における体験型コンテンツ企画事業		
事業内容	文化財施設等を結びつける各種体験型企画の実施。寺宝巡回展など。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度:3,850	令和1年度:3,714	令和2年度:2,102
目標値	令和3年度:3,904	令和4年度:3,922	令和5年度:3,940
事業費	令和3年度:3,000	令和4年度:3,000	令和5年度:3,000

(事業番号5-⑮)

事業名	来訪者目線に立った旅行商品造成事業		
事業内容	イベントにあわせて、文化財施設を巡ることができる二次交通の仕組みを作るほか、特典付き入場券等の造成などを行う。 (おまつりシャトルバスの周遊、三輪タクシーの運行、レンタルEバイク等の提供、特典付き入場券の販売など)		

実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度：3,850	令和1年度：3,714	令和2年度：2,102
目標値	令和3年度：3,904	令和4年度：3,922	令和5年度：3,940
事業費	令和3年度：3,000	令和4年度：3,000	令和5年度：3,000

(事業番号5-⑬)

事業名	祭礼行事における新型コロナウイルス感染拡大防止モデル事業		
事業内容	新型コロナウイルス感染拡大防止に対応した指定文化財等の地域を代表する祭礼行事の実施団体に対し補助金を交付するもの。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光客の入込数	具体的な指標	観光客入込数(千人) ※暦年
実績値	平成30年度：3,850	令和1年度：3,714	令和2年度：2,102
目標値	令和3年度：3,904	令和4年度：3,922	令和5年度：3,940
事業費	令和3年度：5,000	令和4年度：5,000	令和5年度：5,000

(8) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - ①)

事業名	高岡再発見プログラム事業		
事業内容	市内小学生にスタンプラリー形式の冊子・カードを配布し、休日に、親子で、日本遺産構成文化財をはじめとする歴史的風致や、祭礼行事を見学・体験することを促進するもの。冊子には日本遺産のストーリーをまんがで掲載しており、児童の日本遺産への理解を深める。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	「ものづくり・デザイン科」や「高岡の歴史文化に親しむ日」の事業を通じ、郷土に誇りを持ったり、高岡の良さを再発見したりすることができたと思う児童・生徒の割合
実績値	平成30年度：91%	令和1年度：92%	令和2年度：中止
目標値	令和3年度：90%	令和4年度：90%	令和5年度：90%
事業費	令和3年度：985	令和4年度：985	令和5年度：985

(事業番号 6 - ②)

事業名	高岡の歴史文化に親しむ日に関する作品募集事業		
事業内容	平成29年、ユネスコの無形文化遺産に高岡の御車山祭が登録されたことを契機に、御車山祭の開催される5月1日を「高岡の歴史文化に親しむ日」とし、市立学校を休業としている。あわせて歴史文化に関する壁新聞・俳句・短歌の作品募集・表彰を行い、児童・生徒が能動的に歴史・文化に関わる仕組みを通じ、郷土を愛する心を育むもの。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	「ものづくり・デザイン科」や「高岡の歴史文化に親しむ日」の事業を通じ、郷土に誇りを持ったり、高岡の良さを再発見したりすることができたと思う児童・生徒の割合
実績値	平成30年度：91%	令和1年度：92%	令和2年度：中止

目標値	令和 3 年度 : 90%	令和 4 年度 : 90%	令和 5 年度 : 90%
事業費	令和 3 年度 : 110	令和 4 年度 : 110	令和 5 年度 : 110

(事業番号 6-③)

事業名	市民向け日本遺産 PR 事業 (広報誌で PR 事業、テレビで PR 事業)		
事業内容	毎月発行する広報紙で、日本遺産の日 (2 月 13 日) をはじめ、時機を捉えた日本遺産の魅力を発信する記事を掲載する。また、高岡市が地元テレビ局に委託して制作する企画・魅力発信番組 3 本/年のうち 1 本は、日本遺産のストーリーや構成文化財、歴史・文化に関わる番組を制作することで、市民に対する「日本遺産」の認知度を高め、日本遺産に関する取組みへの参画や、歴史的建造物の保全・活用への意欲を醸成する。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和 3 ~ 5 年		
事業評価指標	民間主導のイベントの数	具体的な指標	協力団体が行う日本遺産に関する取組み数
実績値	平成 30 年度 : —	令和 1 年度 : —	令和 2 年度 : 7
目標値	令和 3 年度 : 10	令和 4 年度 : 12	令和 5 年度 : 14
事業費	令和 3 年度 : 740	令和 4 年度 : 740	令和 5 年度 : 740

(事業番号 6-④)

事業名	高校・大学との連携事業		
事業内容	地元の高校、大学 (富山大学芸術文化学部、高岡法科大学など) と連携し、日本遺産に関する講義を行うほか、授業やサークル活動の一環として、学生と協力し、情報発信に係る企画・実践を行う。普及啓発とともに、若い世代への情報発信を促進する。		
実施主体	高岡市日本遺産推進協議会		
事業期間	令和 3 ~ 5 年		
事業評価指標	民間主導のイベントの数	具体的な指標	協力団体が行う日本遺産に関する取組み数
実績値	平成 30 年度 : —	令和 1 年度 : —	令和 2 年度 : 7
目標値	令和 3 年度 : 10	令和 4 年度 : 12	令和 5 年度 : 14
事業費	令和 3 年度 : 50	令和 4 年度 : 50	令和 5 年度 : 50

(事業番号 6-⑤)

事業名	高岡イングリッシュセミナー事業		
事業内容	小・中学生が日本遺産構成文化財をはじめとする高岡の歴史・文化を学		

	び、英語で紹介したり聞いたりする、英語で案内したりする活動を通して、積極的に郷土を紹介しようとする態度を育てる。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3～5年		
事業評価指標	その他	具体的な指標	本事業を通じて、郷土「高岡」のよさを理解したり愛する気持ちが高まったりした割合
実績値	平成30年度：91%	令和1年度：92%	令和2年度：98%
目標値	令和3年度：90%	令和4年度：90%	令和5年度：90%
事業費	令和3年度：98	令和4年度：98	令和5年度：98

(8) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-①)

事業名	アニメでわかる日本遺産コンテンツ制作事業		
事業内容	日本遺産の物語の概要を数分のアニメーションにまとめ、市民への普及啓発に活用する。日本遺産に対する市民の認知度を高め、日本遺産に関する取り組みへの参画や、歴史的建造物の保全・活用への意欲を醸成する。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	ウェブサイトのページビュー	具体的な指標	動画再生回数(累計)
	—		
実績値	平成30年度：—	令和1年度：—	令和2年度：—
目標値	令和3年度：500	令和4年度：800	令和5年度：1,000
事業費	令和3年度：1,000	令和4年度：0	令和5年度：0

(事業番号7-②)

事業名	高岡市ウェブサイト、高岡市観光ポータルサイト及びSNSでの情報発信		
事業内容	日本遺産の日(2月13日)など、時機を捉えた日本遺産に関する取り組みを高岡市ウェブサイト及びSNS(FB、ツイッター、インスタグラム等)で告知する。		
実施主体	高岡市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	フォロワー数などのエンゲージメント	具体的な指標	高岡市公式FBへのいいね数
実績値	平成30年度：3,758	令和1年度：3,968	令和2年度：—
目標値	令和3年度：4,048	令和4年度：4,088	令和5年度：4,129
事業費	令和3年度：0	令和4年度：0	令和5年度：0